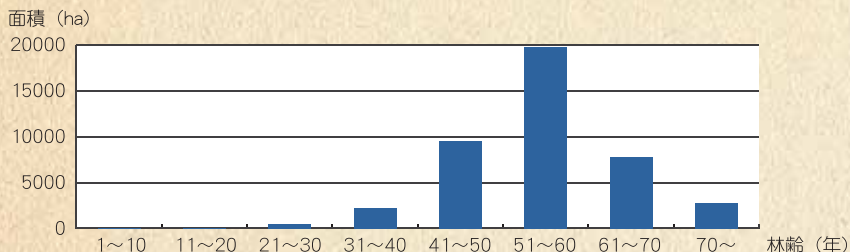


佐久地域のカラマツ

資源状況

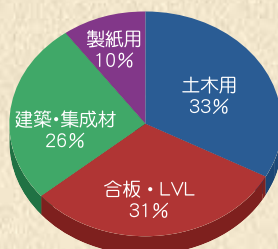
カラマツ林は地域全体の56%を占め、この地域を代表する樹種です。育成期の40年生以下が6%、間伐期の41~60年生までが69%、主伐期の60年生以上が25%であり、今後10年を経過すると、主伐期が71%を占める割合となります。



現在の主な用途別利用状況

- ・ 土木用：杭材 16cm以下 矢板 18cm以上
- ・ 合板 LVL 16~40cm
- ・ 建築 集成材 14~50cm
- ・ 製紙用パルプ 他の用途以外の材

東信木材センター出荷の用途別割合
(平成27年)



佐久地域の特色

- ・ カラマツ資源が充実（蓄積材積1,300万^m、県全体の28%）
- ・ 市場機能の充実による大量集荷・大量出荷と、首都圏等への小口出荷にも対応
- ・ 土木用材から建築用材まで様々な用途に対応
- ・ 通直で強度があり、通年生産による供給が可能
- ・ 芯材の赤みが大きく木目の美しさが際立つ

今後の取組み

引続き全国から引き合いの多い、土木用材及び合板・LVL用材の安定供給を行えるよう、利用期を向えた森林の主伐の推進に取組み資源の平準化を図るため、主伐後の再造林を進めます。

現在、利用の少ない大径材の付加価値を高めるため、大径無節材を突板や造作材として利用できる取組みを進めるとともに、低質材の更なる利用拡大のために燃料用チップとしての利用を進めます。